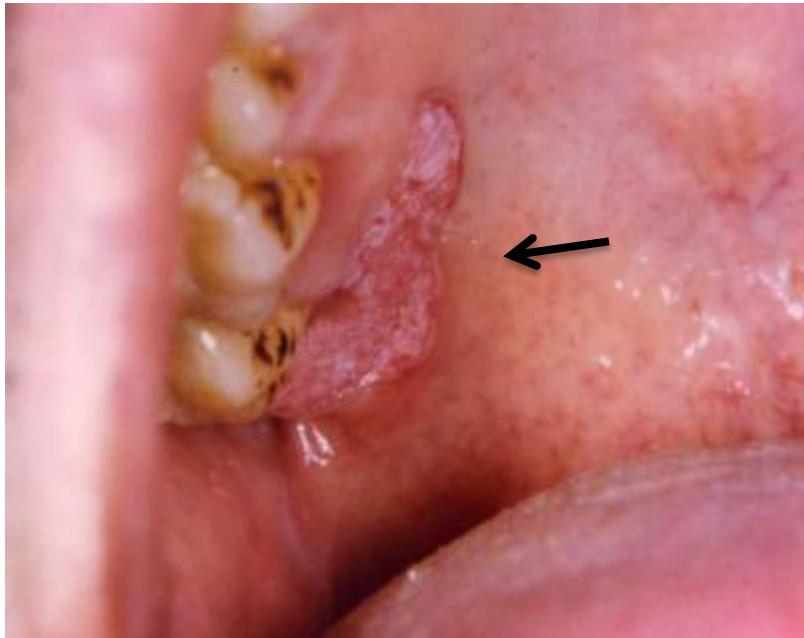


# 症例1（口腔）解説

# 口腔 症例



## 臨床所見

上顎歯肉に**表面粗造**な顆粒状白色病変を認める。周囲**硬結なし**。X線にて**骨吸収は認めない**。  
精査目的にて細胞診施行。

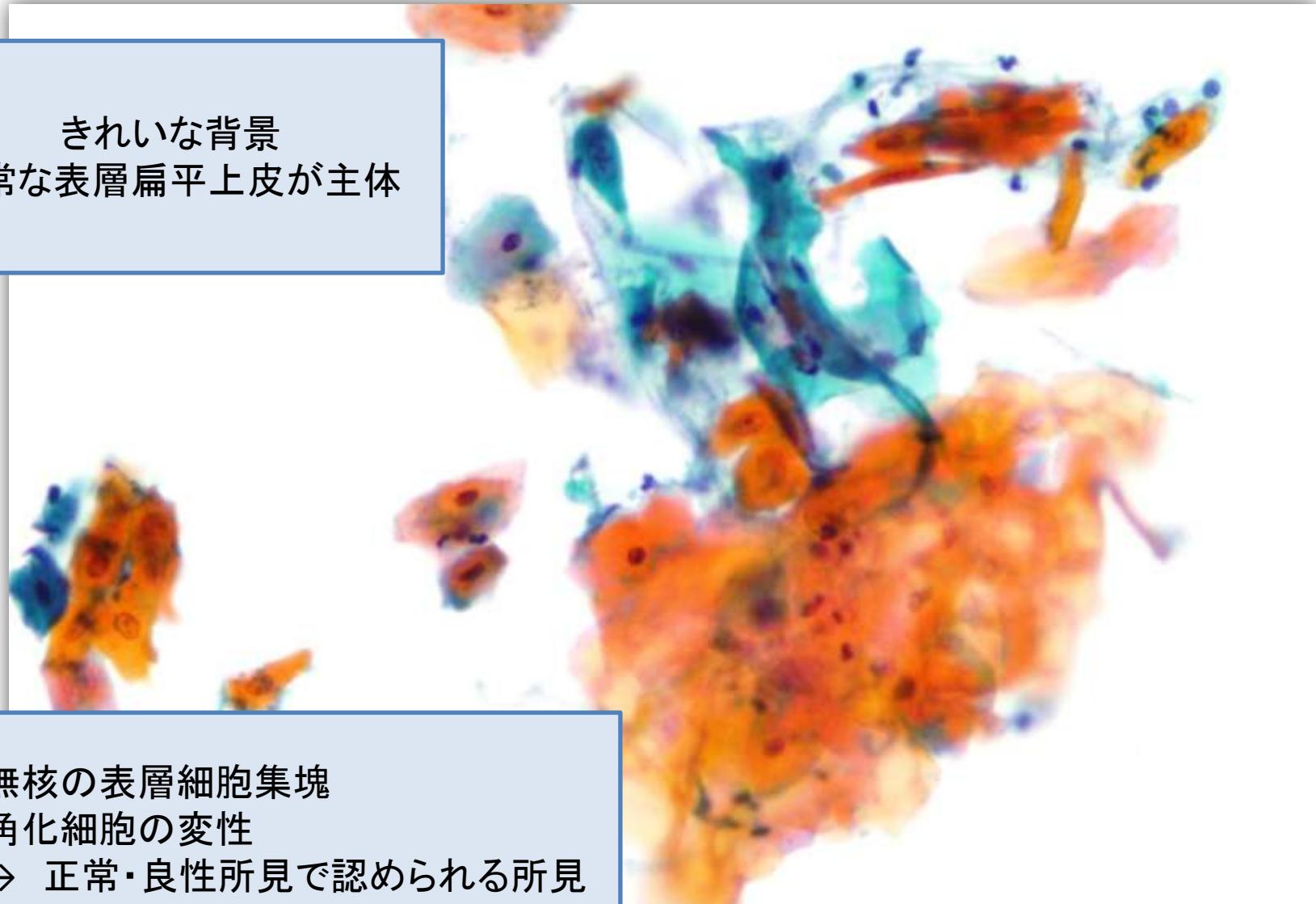
患者: 68歳、男性。

主訴: 3ヶ月前より、左側上顎歯肉に違和感を自覚。

肉眼的所見で、表面粗造  
→ 癌との鑑別のため、**細胞診を実施する意義あり**  
硬結、骨吸収なし → 腫瘍浸潤(−)  
**良性腫瘍の可能性を考える**

# 口腔 視野-1 弱拡

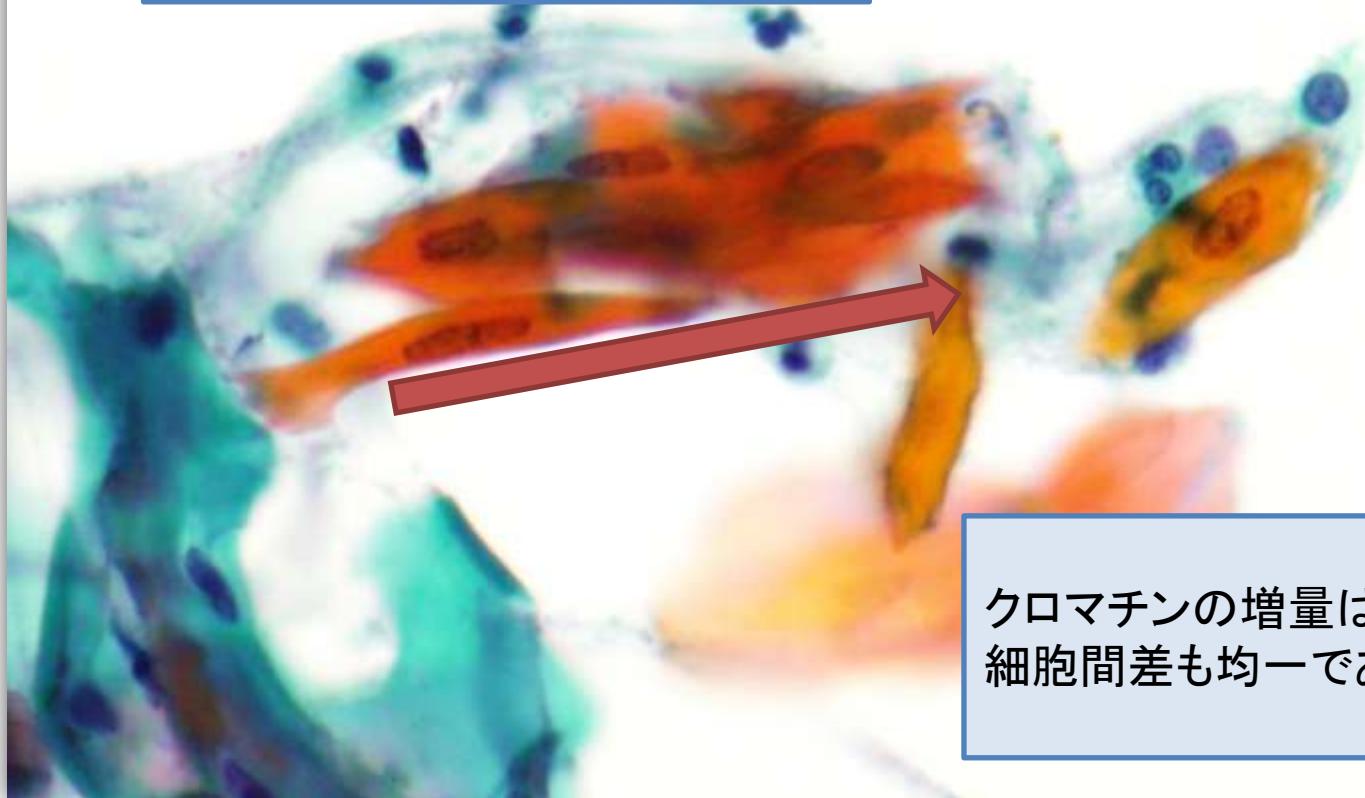
きれいな背景  
正常な表層扁平上皮が主体



無核の表層細胞集塊  
角化細胞の変性  
→ 正常・良性所見で認められる所見

# 口腔 視野-1 強拡

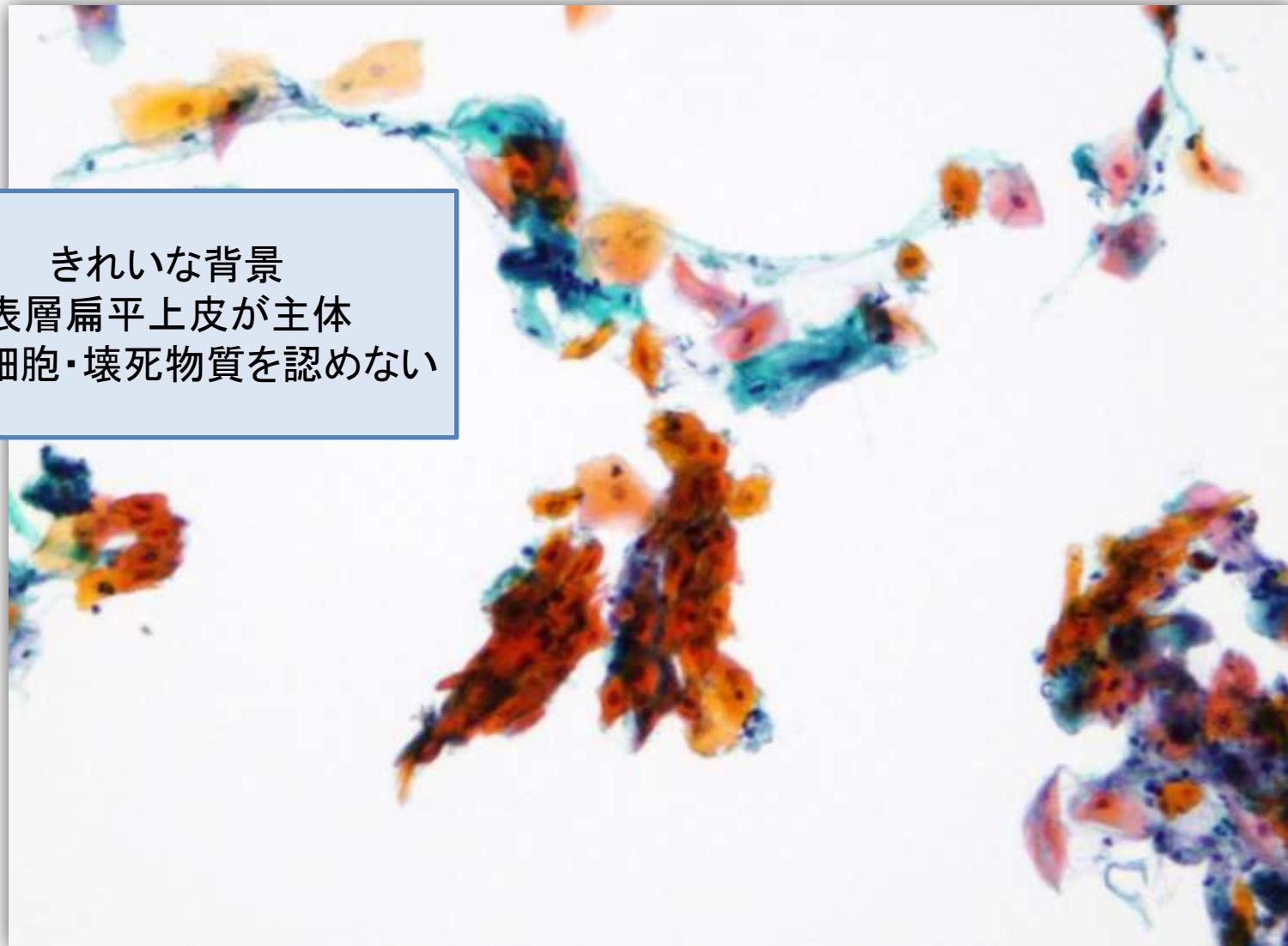
角化傾向、結合性の強い集塊  
核に一定方向の流れを認める



クロマチンの增量は認めず、  
細胞間差も均一である

# 口腔 視野-2 弱拡

きれいな背景  
表層扁平上皮が主体  
炎症細胞・壊死物質を認めない



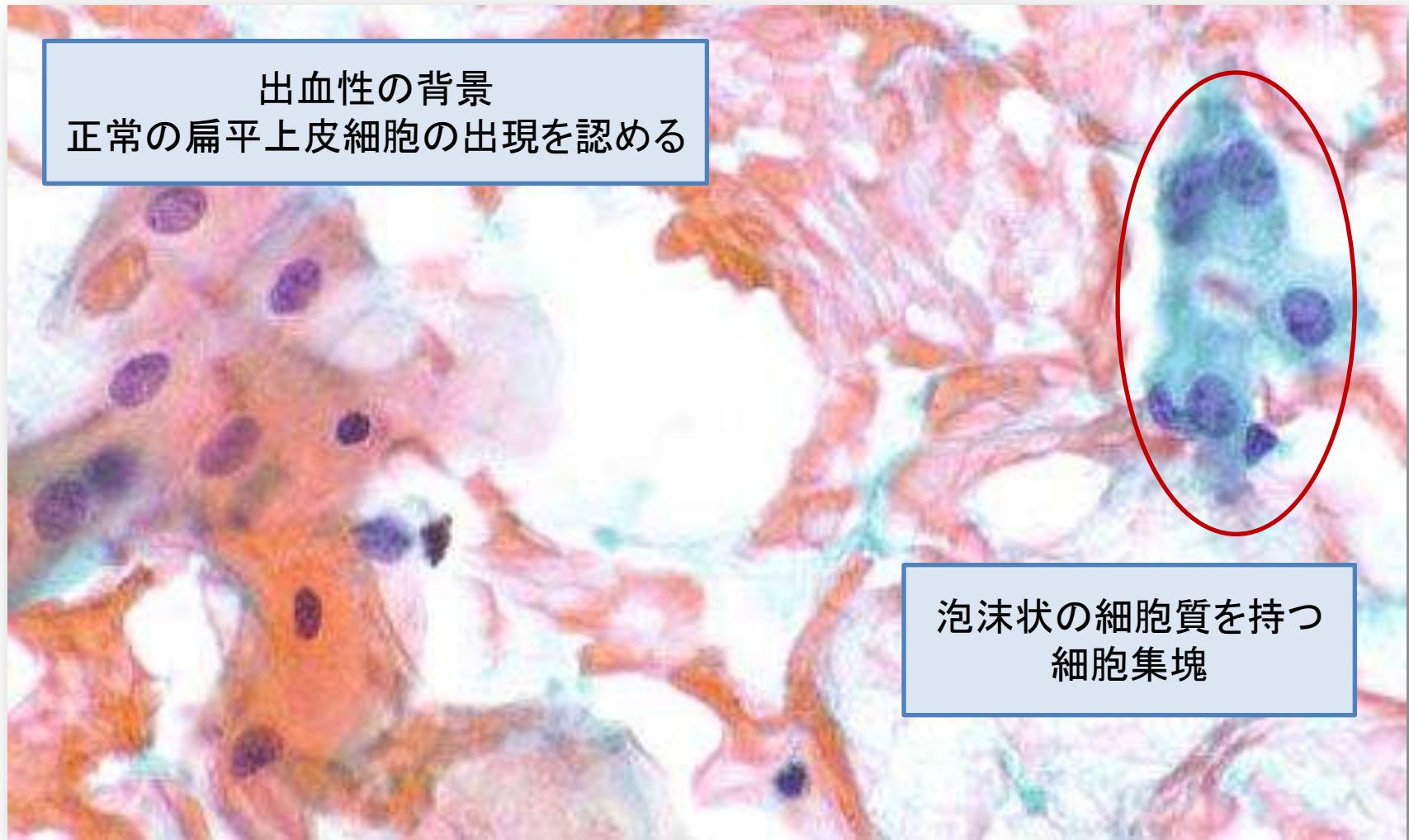
# 口腔 視野-2 強拡

流れのある結合性の強い細胞集塊  
構成する細胞は単一で  
多彩像を認めない

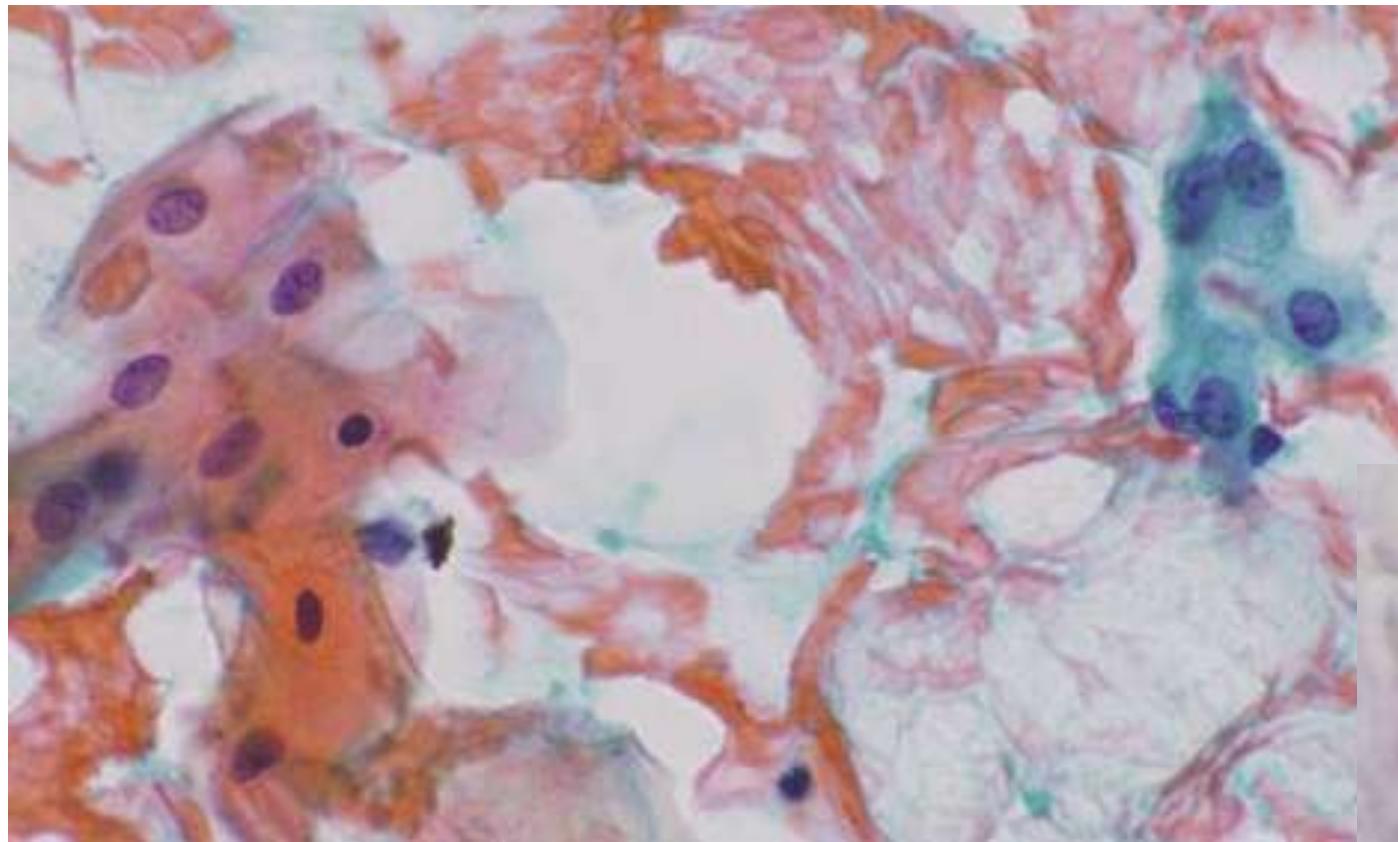
若干の核異型、不整核を認めるが、  
クロマチン顆粒は一様で、均一

悪性細胞の場合、  
濃縮クロマチン(スマジン核)や  
細胞の多彩像を認める

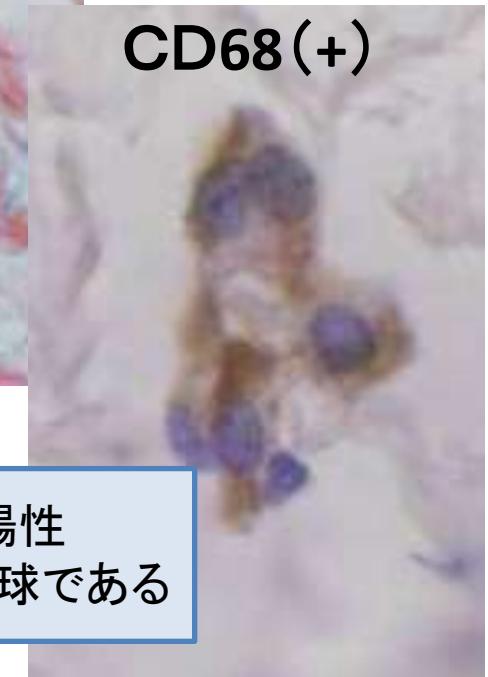
# 口腔 視野-3 強拡



# 口腔 視野-3



CD68(+)



免疫染色にて、CD68陽性  
泡状の細胞集塊は、組織球である

## 《細胞所見のまとめ》

- ①オレンジG好性、角化の強い細胞集塊
- ②結合性の強い細胞集塊
- ③単一な細胞で、多彩像に欠く
- ④軽度の核異型あり

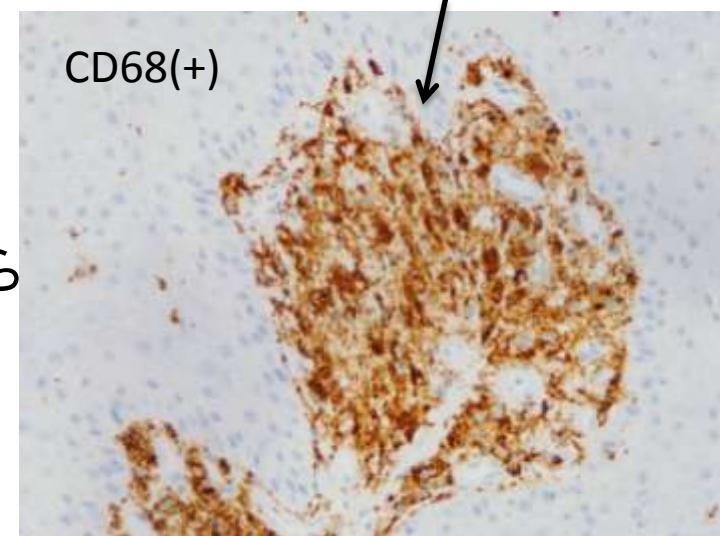
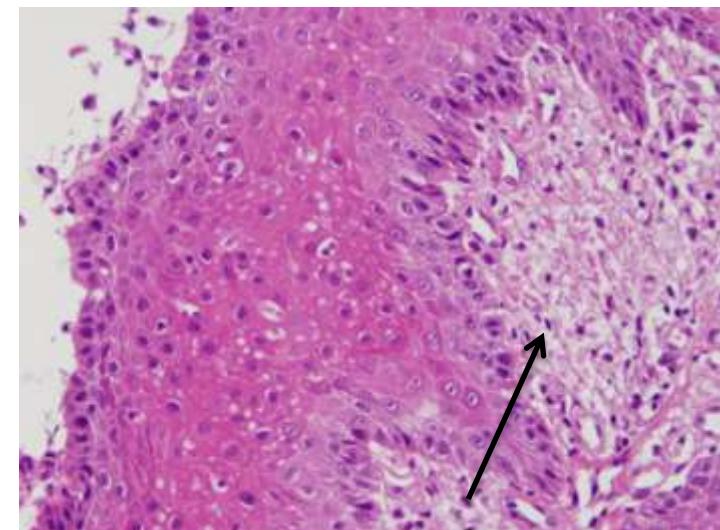
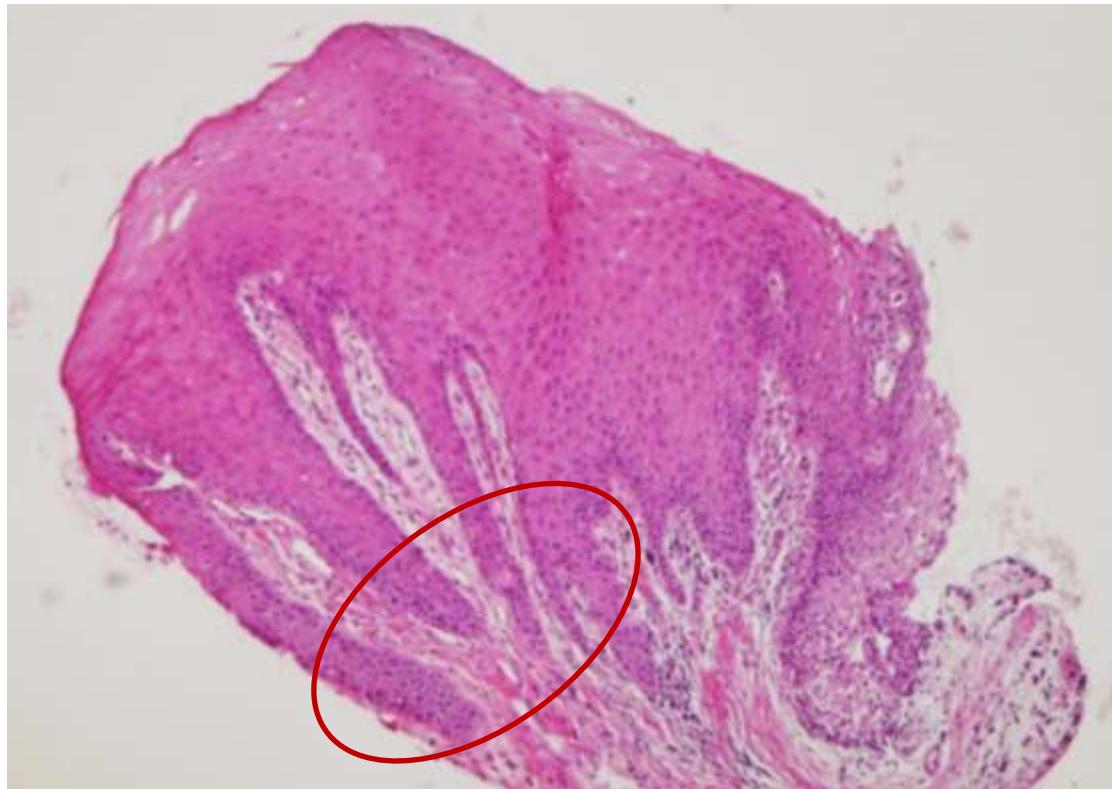
⇒ 良性反応性異型 NILM-LSIL

核所見は弱く、多彩像に欠けるため、HSILまでは取れない

## 口腔 解答選択肢

- 1.歯肉炎
- 2.尋常性天疱瘡
- 3.疣贅型黄色腫
- 4.白板症 高度異形成
- 5.扁平上皮癌

# 疣贅型黄色腫 verruciform xanthoma



重層扁平上皮の上皮突起の著明な延長がみられ、一部で棍棒状を呈する。上皮細胞の異型は乏しく、結合織突起には、泡沫細胞の集簇がみられ、免疫染色にてCD68が陽性である。

# 疣贅型黄色腫 verruciform xanthoma

- 1971年に初めて報告された、比較的稀な良性の粘膜病変
- 中高年者の口腔粘膜、皮膚に好発
- 組織学的に重層扁平上皮に乳頭腫様の発育明瞭な小隆起と、過角化を伴う疣贅状増殖が特徴
- 上皮直下の結合織を中心に泡沫細胞の増殖を認める
- 泡沫細胞は「黄色腫細胞」と呼ばれ、  
PAS(+)、ジアスターーゼ抵抗、CD68(+)
- 上皮脚の延長が著明で、表層細胞の角化亢進、上皮脚の延長を反映し、細胞異型を伴う事が多い  
→そのため、細胞診で過剰診断する可能性が高い